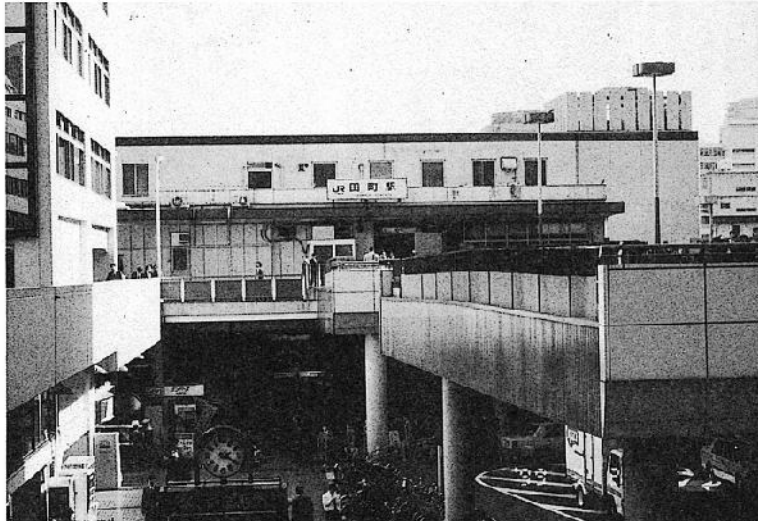


母校とその周辺は今

今年母校は創立七十周年を迎えた。その間世の中は大きく変わり、それに伴って東京の街の変貌ぶりには、目を見張るものがある。三田高校とその周辺も例外ではなく、今回その様子を昭和四十年頃と比べ、写真と文章で紹介する。



現在の田町駅 画面右側は歩道橋



歩道橋の上を人々が行き交う



昭和六十年頃の田町駅

駅の方から見た慶応仲通り入口



●田町駅

自動改札機がずらりと並んですっかり今ふうになった改札口から一歩外へ出ると、そこは巨大な歩道橋の上。それを両側から挟むようにして二つの大きく近代的なビルが建っている。

田町駅は駅舎こそ昔のままだが、改札口が二階部分に造り替えられ、歩道橋は駅から延びて途中何度か左へずれながら、国道第一京浜をまたいでいる。ラッシュ時ともなると、人の流れが絶えることがない。

駅から見た右手のビルは、昔からあった森永の新しい姿。左手の新田町センタービルが建っている所は、以前食べ物屋さんなどがごちゃごちゃと軒を連ねていた一帯で、両ビルともほとんど駅とくっついていて、かつて授業を終えて、家路へ急ぐ私達が電車を待っていたホームは閑散としていたが、同じ時間帯で今はまだ大勢の人が電車を待っている。駅員さんの話によると、乗降客数は以前とは比較にならない程多くなり、夕方のラッシュは夜九時頃まで続く

そうだ。

●慶応仲通りと三田通り

慶応仲通りは健在だ。細い道に居酒屋など小さな店が入り混じっている様は昔通り。それでも駅の方からの入口あたりはちよつとしたビルに変わり、ゲームセンターやファストフード店、そして洒落た食事処なども目につく。

三田通りを母校へ向かって歩きながら見る東京タワー。夜はライトアップされて美しい。昔より